

新興感染症に備える

医療施設の現場から施設に合った感染対策の基本を提供する。

施設内流行に備える！

知っておくべき高齢者施設における感染対策とは



岩手医科大学 附属病院 感染制御部
同 医学部臨床検査医学/感染症学講座

小野寺 直人

公衆衛生上問題となった感染症

新興感染症:かつて知られていなかった、新しく認識された感染症で、局的あるいは国際的に公衆衛生上問題となる感染症

2000	2002年	SARS
	2009年	新型インフルエンザ
	2012年	MERS
	2013年	重症熱性血小板減少症症候群
	2014年	エボラウイルス感染症:アウトブレイク
	2016年	デング熱:世界的規模
	2016年	ジカウイルス感染症
2020	2019年	COVID-19
	2022年	エムポックス:国内での発生
	2026年	ハンタウイルス:クルーズ船



World Health
Organization



Presentation Outline

i. 高齢者施設における感染対策の現状と課題

- 最新の感染症疫学情報から
- 介護現場における感染対策の手引き
- 海外におけるNursing home・感染症対策の新ガイダンス

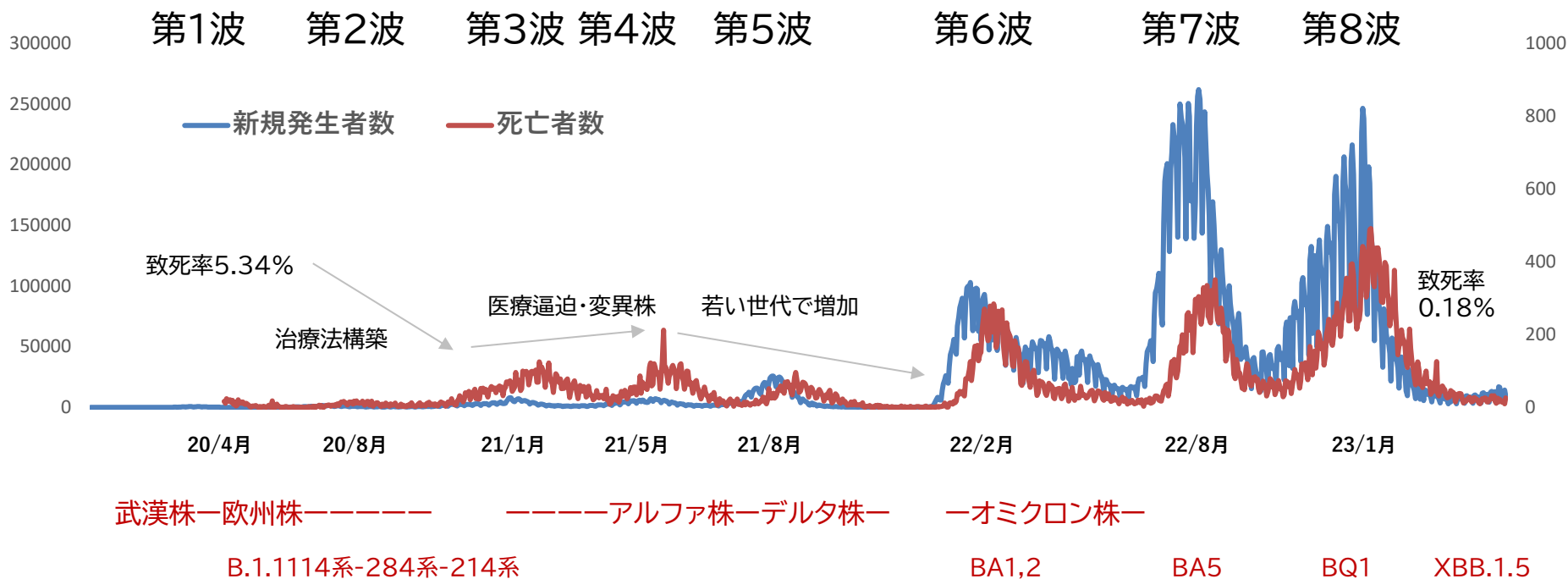
ii. 特に注意すべき感染症:特徴をわかりやすく

- 新型コロナウイルス感染症
- インフルエンザ
- 感染性胃腸炎

iii. 高齢者施設における感染症対策のポイント

- 組織体制と情報察知(サーベイランス)
- 基本的な感染対策の理解
- 感染症発生時の対応

新型コロナ発生を振り返って



死への恐怖・未知の不安

先が見えない・困窮

医療のひっ迫・恐れ

誹謗中傷・差別

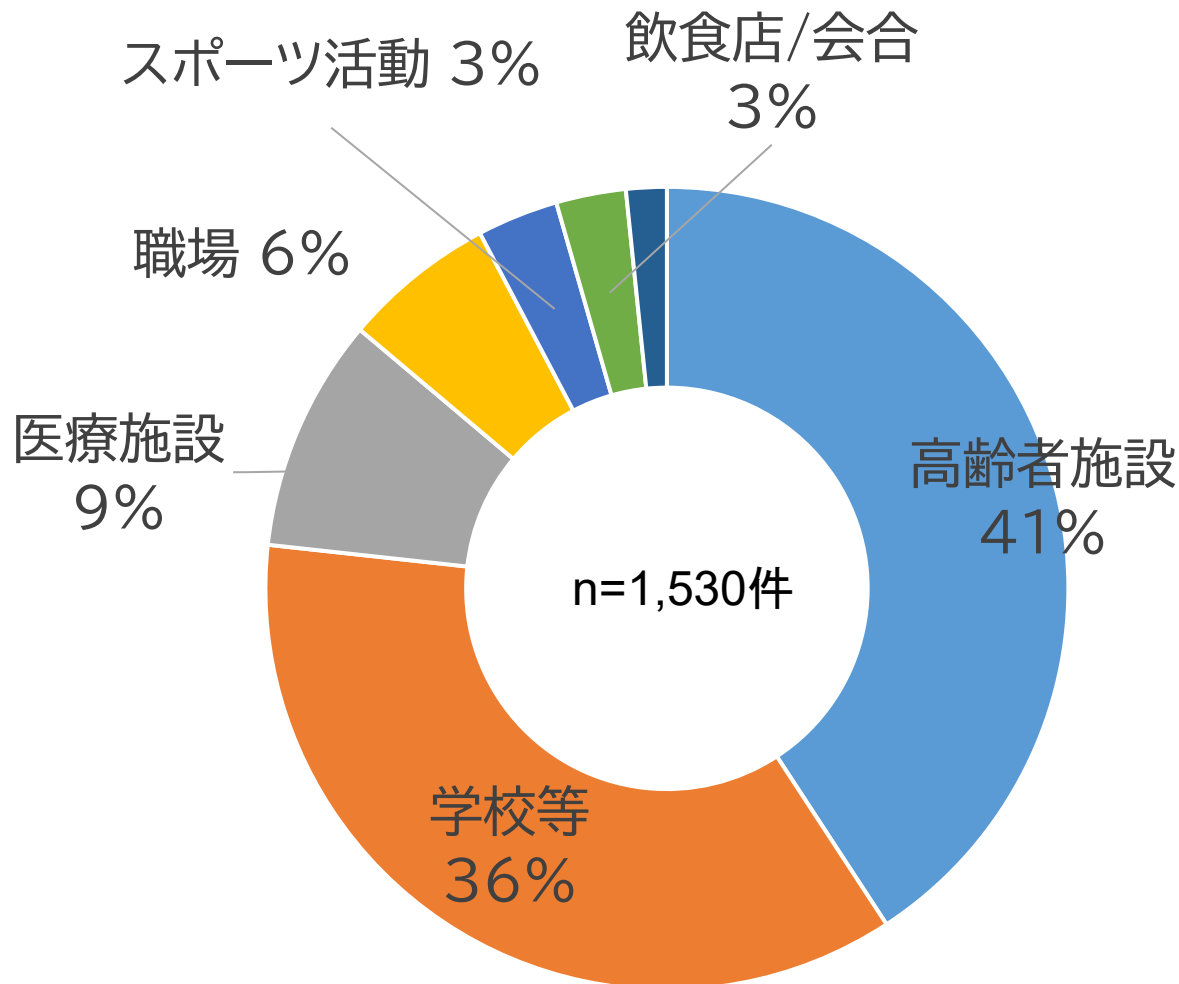
ワクチン遅延・不平等感

コロナ疲れ・閉塞感

医療・検査体制の不備

コロナクラスター発生状況

2020年11月～2023年2月



医療施設大規模クラスター
飲食店



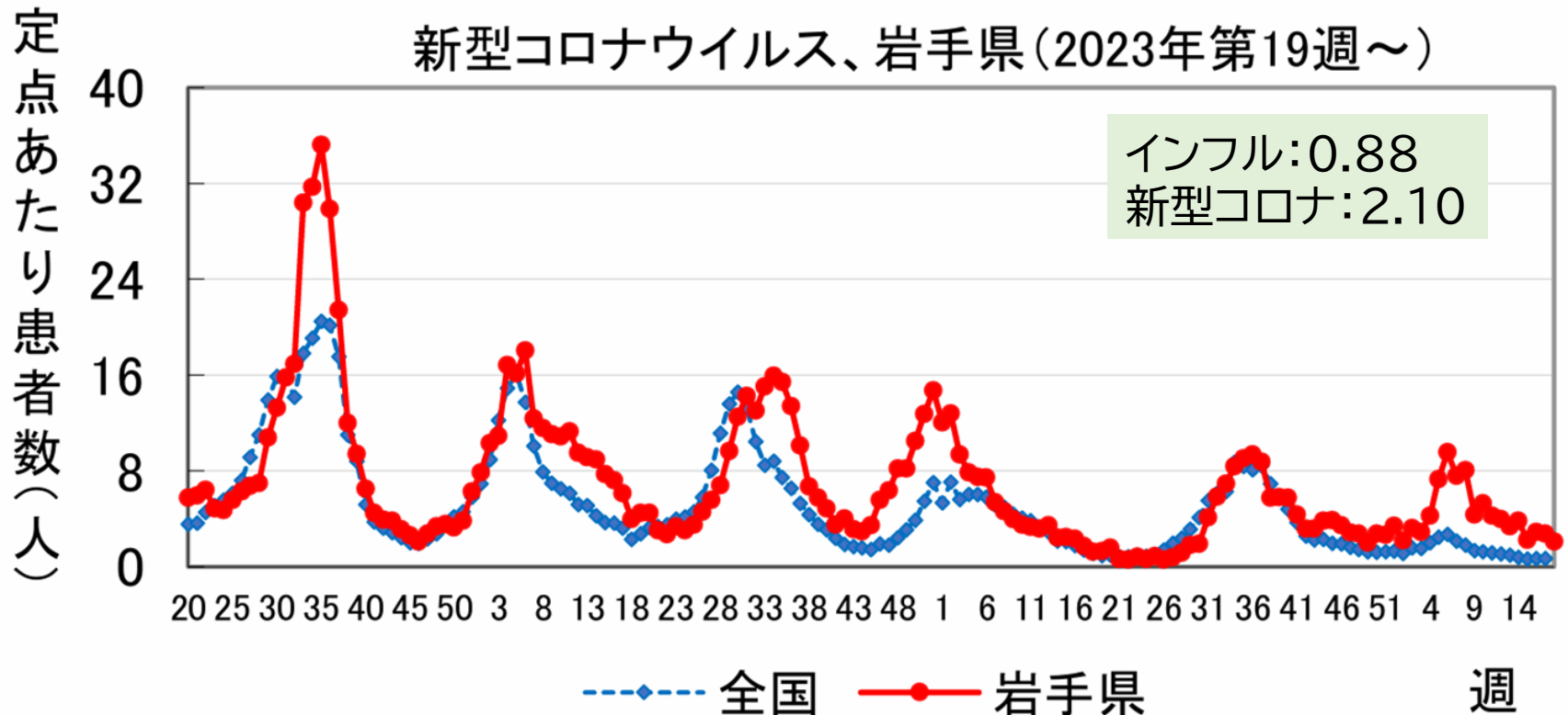
スポーツ施設
職場



学校・保育園
高齢者施設

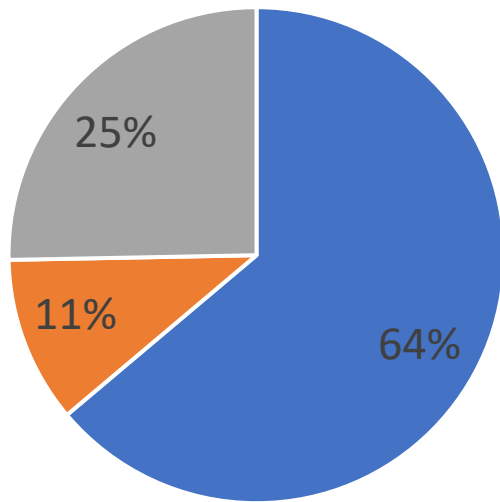
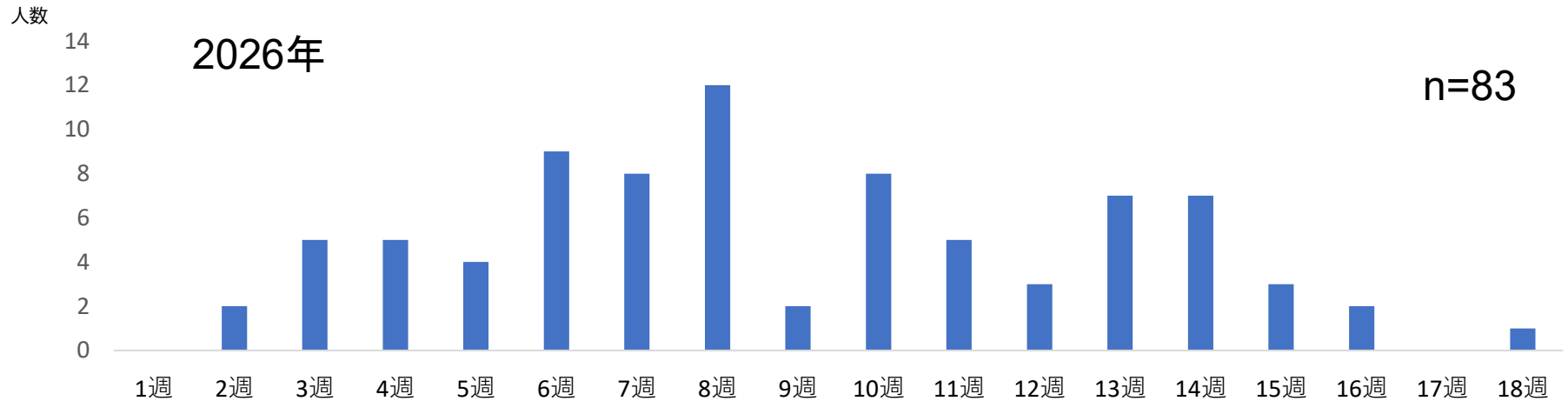
新型コロナ発生状況：5類移行～

(参考) 新型コロナウイルス感染症定点当たり報告数（全国、岩手県）



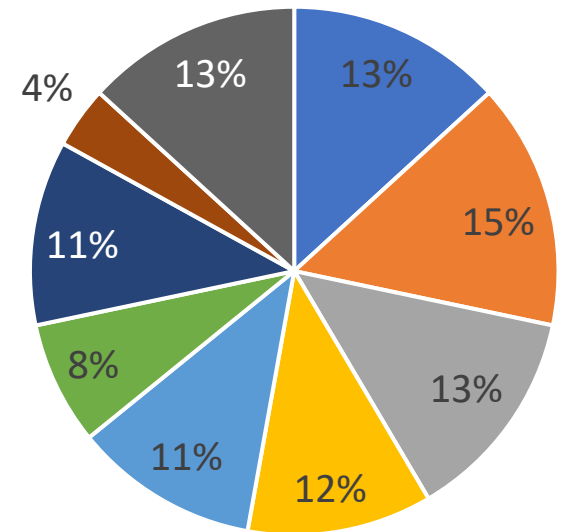
流行期: 新型コロナ5人以上または、季節性インフルエンザ10人以上

岩手県：コロナクラスター発生状況



■ 高齢者施設 ■ 教育施設 ■ 医療施設

■ 一関
■ 奥州
■ 中部
■ 盛岡
■ 県央
■ 二戸
■ 大船渡
■ 釜石
■ 宮古



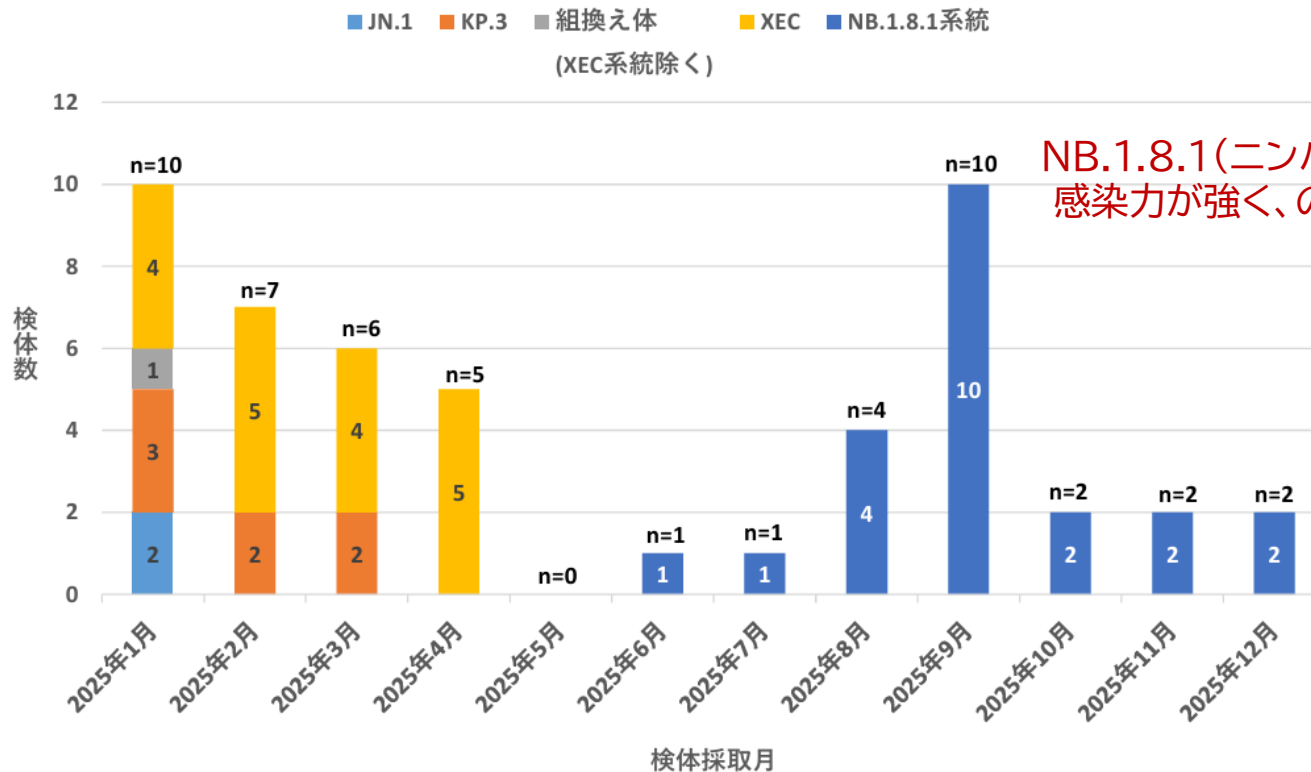
医療圏別発生数

新型コロナ流行株

新型コロナウイルス感染症のウイルスゲノム解析結果

岩手県では、新型コロナウイルスの変異株の発生動向を把握することを目的として、国立感染症研究所の協力のもとゲノム解析を行っています。
新型コロナウイルスの変異株と国内における発生動向については、国立健康危機管理研究機構（JIHS）ホームページをご覧ください。

岩手県における新型コロナウイルスのゲノム解析結果（n=検体数）



NB.1.8.1(ニンバス株)は
感染力が強く、のどの激痛が特徴

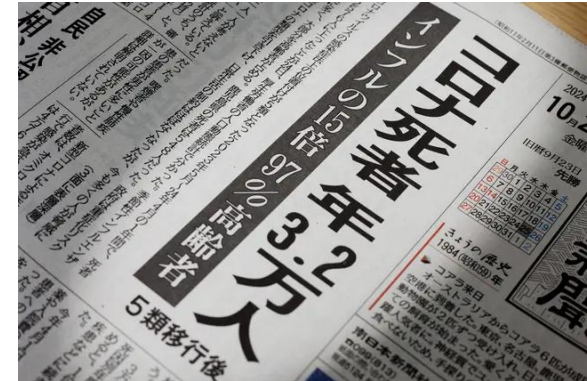
※ 検出数の推移がわかるように表記を変更しました。
※ 解析結果は、随時、更新します。

令和8年1月8日現在

岩手県感染症情報センター

新型コロナ vs.インフルの死亡者数

新型コロナ死者数 年間3.2万人
インフルの15倍 “命を守るために”
”ワクチン接種の検討を



「2023年5月～2024年4月の1年間で、新型コロナウイルスによる死者数が計3万2576人に上った」

■ 厚生労働省の人口動態統計

厚生労働省・人口動態統計:新型コロナウイルスによる死者数は、3万2576人で、そのうち65歳以上が約97%を占めた。

同じ時期の季節性インフルエンザの死者数は2,244人で、季節性インフルエンザの約15倍もの人が新型コロナウイルスによって亡くなったこと。

<https://medicaldoc.jp/about/>

新型コロナワクチン接種の推奨

厚生労働省の公式方針(2024年度以降)

- i. 接種を推奨される人(定期接種の対象)65歳以上の高齢者
- ii. 60～64歳で重い基礎疾患がある人
→ 目的は重症化予防接種時期毎年秋冬に1回

日本感染症学会・日本呼吸器学会・日本ワクチン学会(2025.9)

- i. 高齢者の定期接種を「強く推奨」
- ii. 理由は高齢者の重症化・死亡リスクが依然として高い変異株が継続的に出現し、流行が繰り返されている。

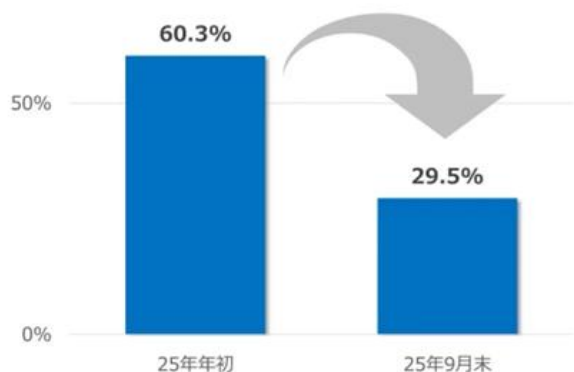
ポイント:2024年のCOVID-19死亡数は35,865人(死因8位)で、インフルエンザ死亡数を大きく上回る。

2024年秋～2025年春の JN.1対応ワクチンの効果

65歳以上の発症予防効果:約52.5%

新型コロナワクチン定期接種の認知率

「新型コロナワクチンの定期接種対象者である」ことの認知率



2025年度定期接種の認知率

対象:65歳以上の全国男女2500名

方法:オンライン調査

時期:2025年1月10日~12日

2025年9月26日~29日

定期接種の対象者であることを知っている人は29.5%で、**3割を下回る結果**。

ヒューマン・データ・ラボラトリ株式会社

定期接種の自己負担額(人口5万人以上の549自治体を対象)

高額負担:茨城県笠間市で1万3600円

低額負担:東京都の6区で無償

平均負担:6,248円

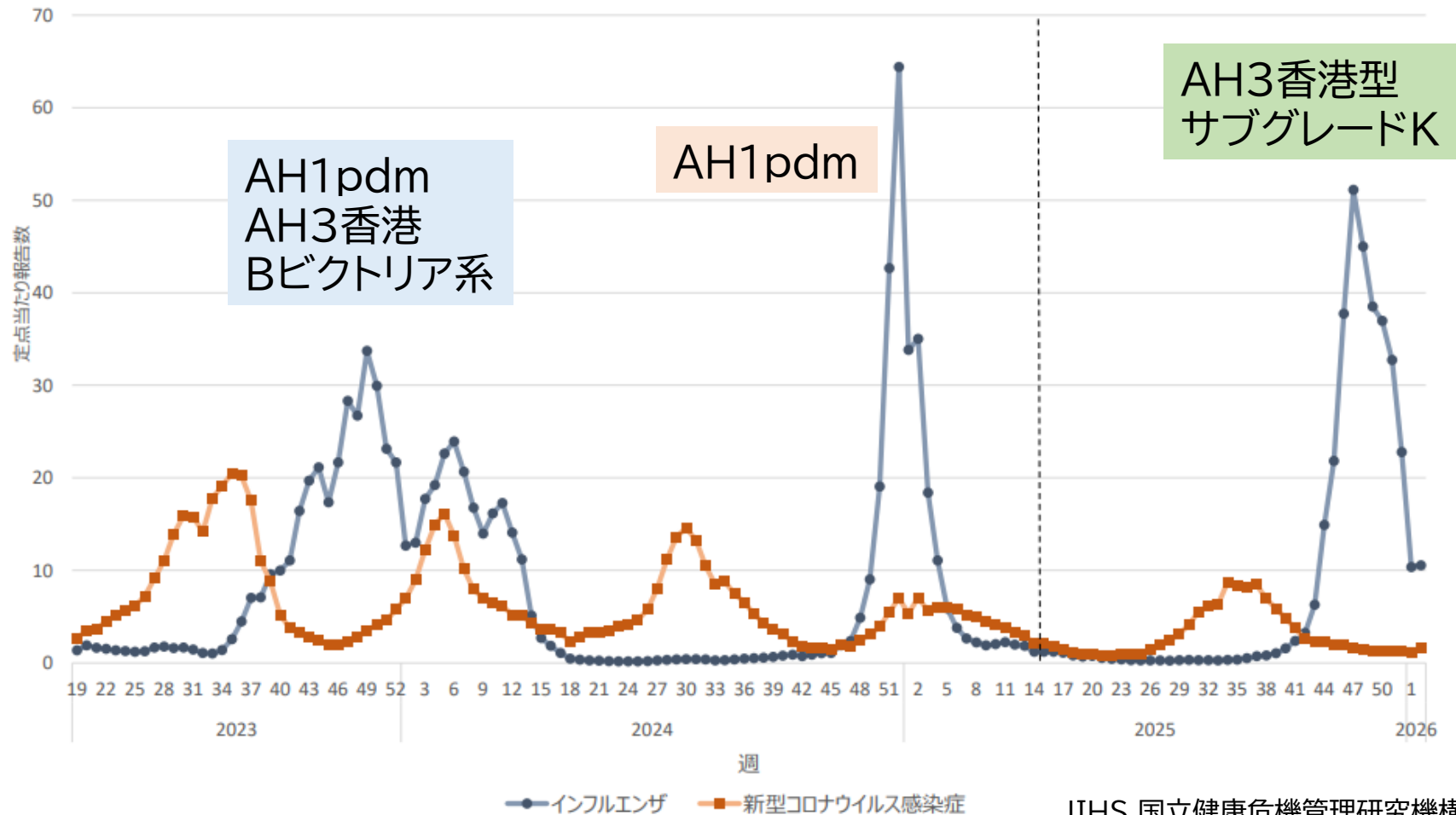
PR Times 2025.12.16

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000017.000048466.html>

新型コロナ・インフルの発生状況

インフルエンザと新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数の推移（全国）

※2025年第15週（4月7日～13日）以降の数值は、急性呼吸器感染症サーベイランス開始による定点医療機関設置基準の変更に伴い定点数が増加しているため、データの解釈には留意が必要となります。



インフルエンザも換気が大切・・・

教室内外曝露、室内空気が学校内の呼吸器ウイルス感染に相対的に寄与

対象: 2023/24冬季、スイスにある中学校の生徒67人を6週間で調査

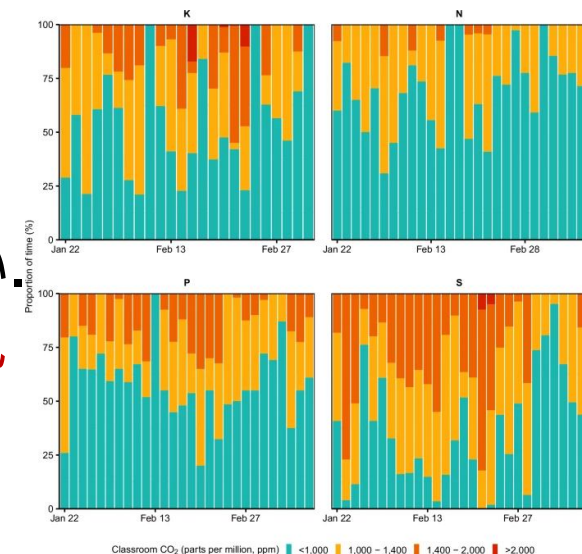
方法: 感染性のある生徒と密接に過ごす時間、教室での長時間曝露、CO₂濃度との関連を調査、唾液サンプルからウイルス感染を検出し、回帰モデルを用いて推定

至近距離での曝露: 21.2分/日

教室内外曝露: 5.3時間/日

教室内外の不十分な換気曝露: 1.9時間/日

- ウイルス感染は休み時間より授業中に起こりやすい。
- 至近距離より、感染源が複数人いて、不十分な換気空間で過ごす方が感染リスクは高い。

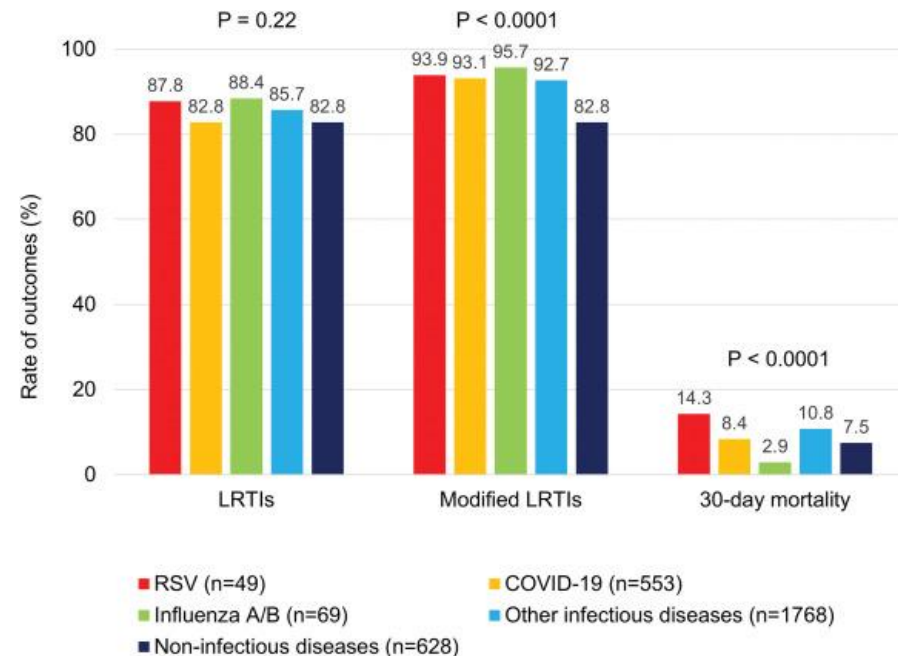


The relative contribution of close-proximity contacts, shared classroom exposure and indoor air quality to respiratory virus transmission in schools

高齢者で注意すべきRSV感染

高齢入院患者 RSVの30日死亡率が新型コロナやインフルエンザを上回る

- 日本の3つの地域中核病院で実施されたEVERY前向きコホート研究
- 急性呼吸器症状で緊急入院した高齢者において、RSV感染患者の30日死亡率は14.3%と、COVID-19の8.4%、インフルエンザA/Bの2.9%を大幅に上回った。



高齢者施設で結核の集団感染

都城市の高齢者施設で結核の集団感染 入所者や職員など15人が感染

- 都城市の高齢者施設で結核の集団感染があり、12月23日までに入所者や職員など15人が感染。



- 70代の入居者および20代の職員が結核発症。
- その後都城保健所が施設の入所者や職員など80人を検診したところ、15人が感染し、このうち8人が、結核を発症。
- 岩手県でも結核が増加中！

高齢者向け予防接種プログラムの費用対効果

日本や米国等の10か国を対象に、成人向け予防接種プログラムの費用便益分析された。



- 高齢者向けのインフルエンザ、肺炎球菌感染症、带状疱疹、RSウイルス感染症に対する予防接種プログラムは、**すべての国で費用対効果が高い**ことが示された
- 特に死亡率に影響する**インフルエンザと肺炎球菌感染症**の予防接種プログラムでは、投資に対する見返りが最も高かった。

介護現場における感染対策の手引き



第Ⅰ章 総論

- ✓ 感染対策の重要性
 - ・ 感染対策の基礎知識
 - ・ 介護等と感染対策
- ✓ 介護サービスにおける関係法令
- ✓ 感染管理の体制づくり
- ✓ 職員の健康管理
- ✓ 感染症発生時の対応 など

第Ⅱ章 感染症各論

- ✓ 新型コロナウイルス感染症
- ✓ インフルエンザ
- ✓ 感染性胃腸炎
- ✓ 結核 など

第Ⅲ章 参考

- ✓ 健康記録書式例
- ✓ 参考ウェブサイト など

ナーシングホーム感染症対策：新ガイドンス

SHEA、APIC、IDSA等によって支持され、介護施設ケアの複雑さ、入居者の医療的高度化、多剤耐性菌の拡散、新興病原体の脅威から感染予防に関する提言。



★★★感染予防専門職(ICP担当者)の配置を推奨

- スタッフ教育の継続強化(すべての職員)
- ワクチン接種の推進
- 公衆衛生機関や外部支援との連携
- 感染拡大時でもQOLを維持
 - ▣ 感染予防しながら入居者の社会的孤立を防ぐ



Multisociety guidance for infection prevention and control in nursing homes.,
28 October 2025. Infection Control & Hospital Epidemiology.

日本環境感染学会認定制度



第1ステップ (Certified Infection Preventionist: CIP)

医療従事者のビギナーレベル、高齢者施設の従事者レベル

願書または申請書の提出期間

2026年7月1日(水)～2026年8月31日(月)

試験期間

2026年12月5日(土)～2026年12月13日(日)

第2ステップ (Advanced CIP: A-CIP)

ICTの一員として活動するメンバーに求められるレベル

第3ステップ (Expert CIP: E-CIP)

感染制御に関わる各医療専門職の分野で認定される資格よりも高度

CIP認定制度 教材

1 感染症の基本と主な疾患

微生物の基礎知識

感染症治療の基本

2 感染対策で使う基本的な疫学・統計学

3 標準予防策

感染経路別予防策

アウトブレイク対応

4 洗浄・消毒・滅菌

5 医療環境の感染対策

～水・換気・ゾーニング～

～清掃・廃棄物処理～

6 ワクチンプログラム

7 成人学習とコミュニケーション

8 感染対策に関わる“情報”の基本

9 感染管理プログラム

10 感染症法に基づく届出



Presentation Outline

i. 高齢者施設における感染対策の現状と課題

- 最新の感染症疫学情報から
- 介護現場における感染対策の手引き
- 海外におけるNursing home・感染症対策の新ガイダンス

ii. 特に注意すべき感染症:特徴をわかりやすく

- 新型コロナウイルス感染症
- インフルエンザ
- 感染性胃腸炎

iii. 高齢者施設における感染症対策のポイント

- 組織体制と情報察知(サーベイランス)
- 基本的な感染対策の理解
- 感染症発生時の対応

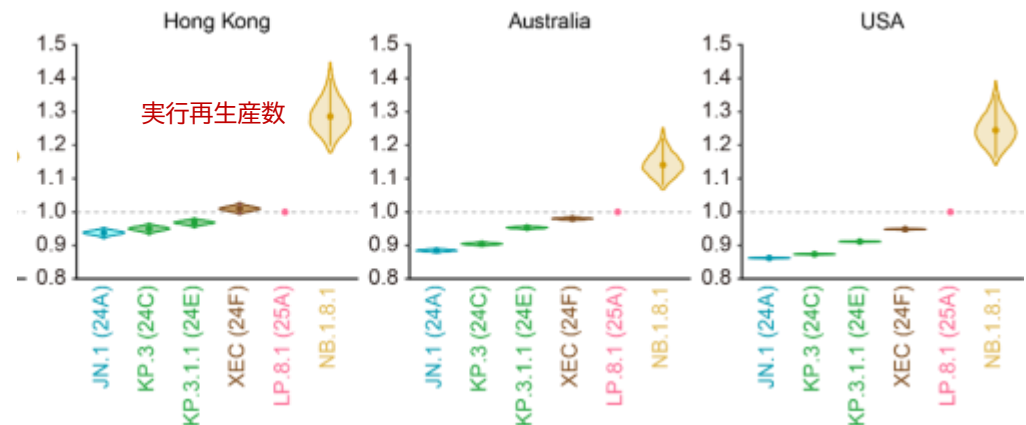
新型コロナウイルス感染症：症状



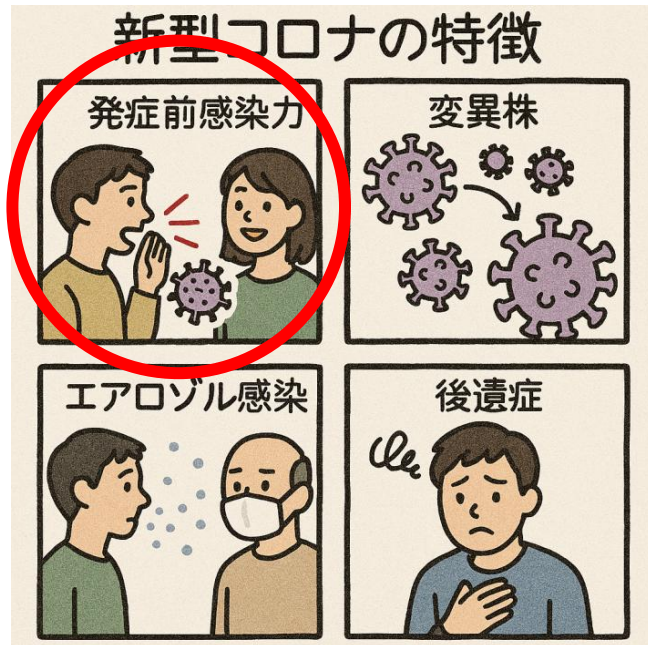
最近の流行株 (ニンバスNB.1.8.1)の特徴

⇒新興株:セミ(BA.3.2)

- 感染力が高い
- 喉の激痛が特に多い
- 消化器症状の割合が増加
- ワクチン接種者や既感染者でも再感染が増えている



新型コロナウイルス感染症：感染力



Temporal dynamics in viral shedding and transmissibility of COVID-19

Nature Medicine volume 26, p72–675 (2020)

- 感染性は、**症状発現の2.3日前**(95%信頼区間: 0.8~3.0)から始まり、**ピークは0.7日前**(95%信頼区間: -0.2~2.0)その後**7日間かけて低下**すると推測した。
- 発症前感染率: 44%(95%信頼区間: 25~69)

発症前日までに採取した検体の60件中、50件(83.3%)は陰性

3日前: 0%(0/11)

2日前: 5%(1/20)

1日前: 31%(9/29)

新型コロナウイルス感染症：後遺症

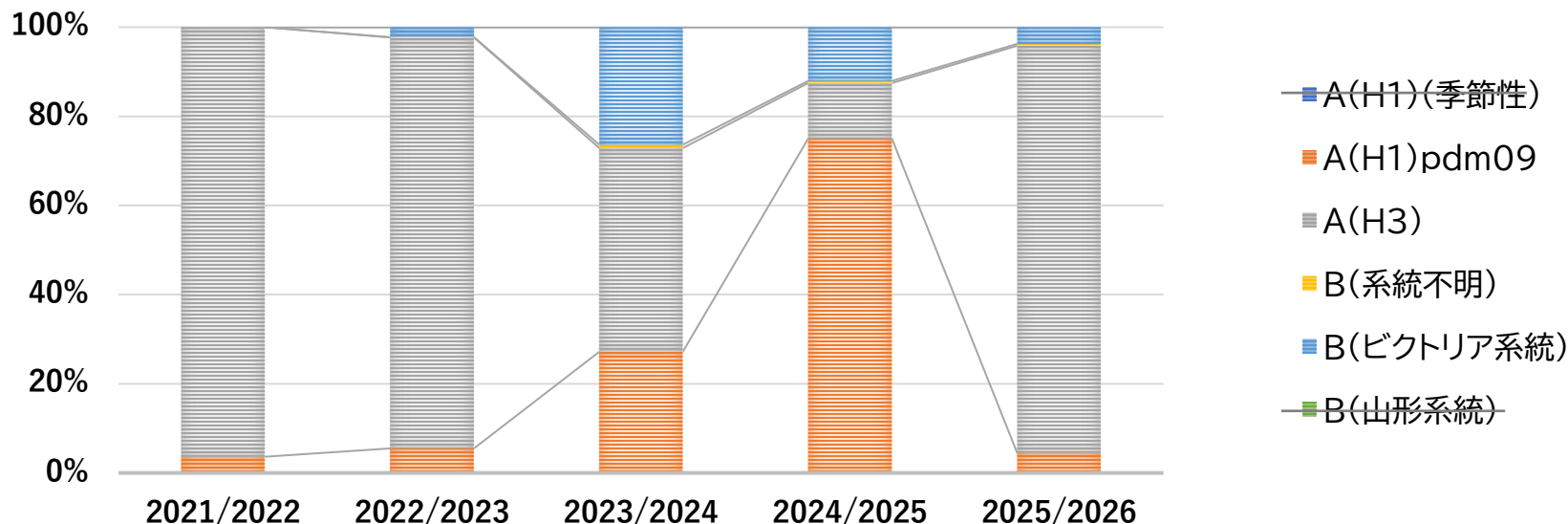


COVID-19後遺症の年齢やワクチン接種率による発症傾向を解明

今井由美子ら：NIBIOHN press release 2023.7.13

- 0～85歳の12万症例の大規模調査
- 頭痛、倦怠感、味覚・嗅覚障害等は、急性期からみられ、その約1割が長期化する。
- うつや廃用症候群症状は、高齢者層で約2～5割で長期化する傾向。
- 発症後に要介護度が上がる傾向が見られ、要介護度4や5の患者が増加する傾向がある。

インフルエンザ：流行株



- 季節性インフルエンザは例年 A型(H1N1・H3N2)とB型(Victoria系統・Yamagata系統) が混在して流行。
- AH3の流行から、昨年はAH1が主流となり、今シーズンはAH3が大きく占めた。
- 2025年夏からは、AH3サブグレードKが台頭している。海外からの流入も影響している？

インフルエンザ:サブグレードK



インフルエンザウイルスの分類

型→A型・B型

亜型→H1N1・H3N2等

クレード→系統群

サブクレード

- サブグレードKは、**感染が拡大するスピードが早いものの**、症状や重症度は従来の季節性インフルエンザと大きく変わらないものと想定。
- ワクチン接種効果は、一定程度の有効性が保たれる。
- 通常の抗インフルエンザウイルス薬が有効であるとされている。

新型インフルエンザ等対策推進会議(第20回)(令和7年12月1日)

- 症状は強く、回復に時間がかかる傾向あり。ウイルスの変異で、免疫系の認識に時間がかかる。

Subclade K Flu Symptoms: How It Affects Adults and Children

感染性胃腸炎：集団発生

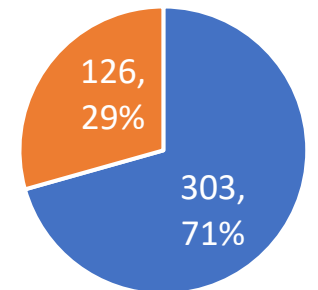


- ・ 高齢者施設では、ノロウイルスなどによる感染性胃腸炎が短期間でクラスター化しやすい。
- ・ 10名以上の発生や半数以上の利用者に症状が出た場合は“集団発生”として保健所への報告が必要とされている。

2025年の高齢者施設の集団発生

発生日	保健所	利用者	職員
1月15日	奥州	13	7
1月15日	奥州	15	4
1月20日	奥州	25	18
1月23日	奥州	10	1
2月5日	二戸	6	5
2月19日	中部	11	7
2月24日	中部	28	4
2月25日	中部	6	4
2月26日	奥州	12	9
2月26日	一関	17	8
2月25日	久慈	9	2
2月27日	釜石	15	6

発生日	保健所	利用者	職員
3月2日	中部	18	6
3月10日	奥州	10	7
3月16日	県央	9	4
3月20日	奥州	11	4
3月26日	県央	34	3
4月15日	奥州	19	8
4月26日	中部	9	5
5月26日	二戸	9	2
9月26日	一関	11	5
11月4日	釜石	6	7
合計		303	126



■ 利用者 ■ 職員

感染性胃腸炎：対策の重要性



- ノロウイルスは100個以下でも感染
- 乾燥環境でも長時間生存
- 高齢者は脱水・誤嚥性肺炎など重症化リスクが高い。
- 共有スペース・食堂・トイレなどで接触・飛沫・環境汚染が重なりやすい。

嘔吐物・便の処理方法

- 防護具着用：手袋・マスク・エプロンを必ず装着
- 処理手順：嘔吐物をペーパータオルで覆う外側から内側へ拭き取り
0.1%次亜塩素酸ナトリウムで周囲2m以上を消毒処理
- 手洗い(石けん＋流水)
- リネン類・衣類：85℃以上で洗濯、または塩素系漂白剤で浸け置き

Presentation Outline

i. 高齢者施設における感染対策の現状と課題

- 最新の感染症疫学情報から
- 介護現場における感染対策の手引き
- 海外におけるNursing home・感染症対策の新ガイダンス

ii. 特に注意すべき感染症:特徴をわかりやすく

- 新型コロナウイルス感染症
- インフルエンザ
- 感染性胃腸炎

iii. 高齢者施設における感染症対策のポイント

- 組織体制と情報察知(サーベイランス)
- 基本的な感染対策の理解
- 感染症発生時の対応

1. 組織体制と情報察知

令和3年度介護報酬改定で、
感染対策委員会の設置が義務化

【感染対策委員会】

- 施設内の感染症の発生状況を把握する。
- 施設の課題を集約し、感染対策の計画を定め実践する。
- 職員への教育啓発を行う。
- 感染症が発生した場合、指揮の役割を担う。

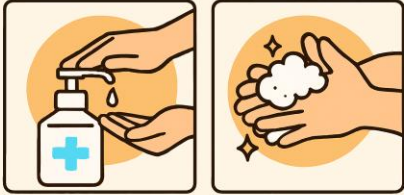


【感染対策チーム:例】

- 感染予防専門職(ICP担当者)の配置
- 感染症発生状況を収集・分析(症候群サーベイランス・マッピング)
- 手指衛生やPPEの使い方、入居者の周囲環境に問題ないか
- 研修会の企画や啓発方法を考える
- 感染症発生時の対応をまとめ、訓練を行う

2. 基本的な感染対策

手指衛生



手指衛生は最も効果的な感染対策です。

個人防護具



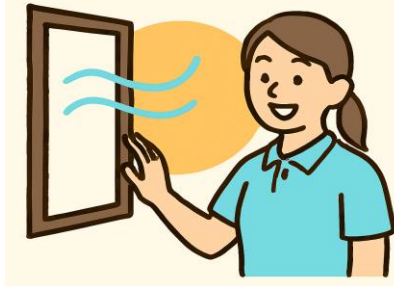
使い方を間違えると、汚染が広がります。

環境整備



清潔な環境を保つことで、感染症のリスクを低減できます。

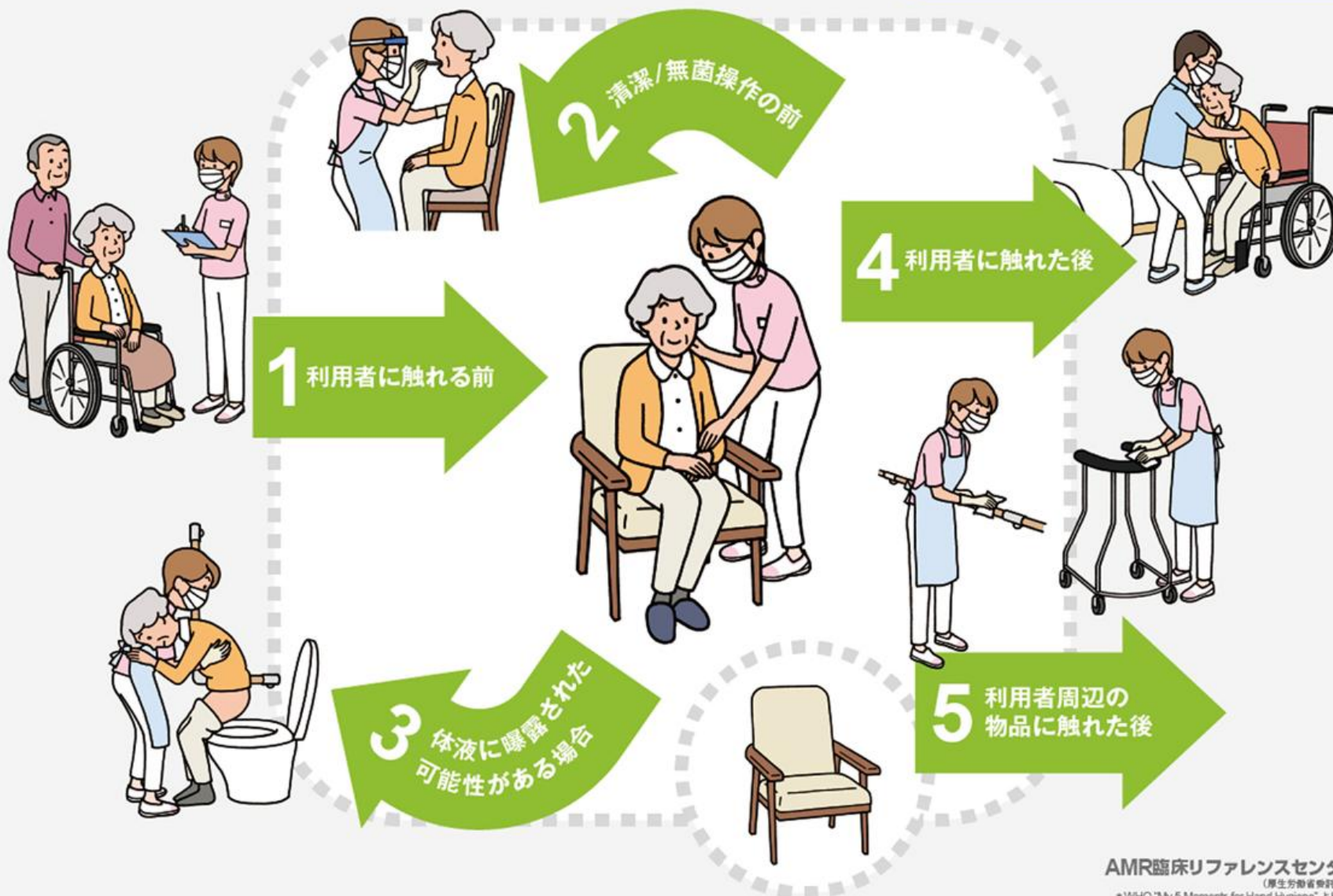
高齢者施設の換気



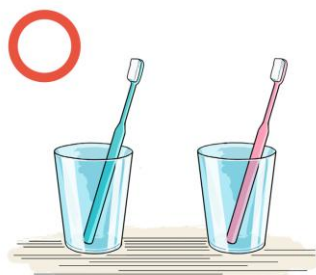
最近では換気が重要だとされています。

手指衛生5つのタイミング

手指衛生 5つのタイミング



施設内の環境整備



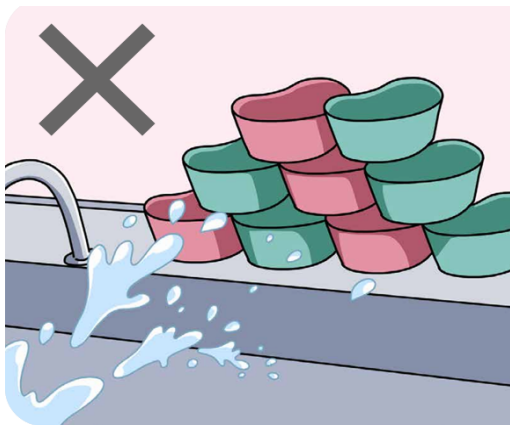
✕ 間違った事例

共用の手洗い場でうがいをする。

○ 正しい事例

うがいをする場所と共用の手洗い場は分ける。

施設内の環境整備



✕ 間違った事例

古いスポンジを長期間交換していない。

○ 正しい事例

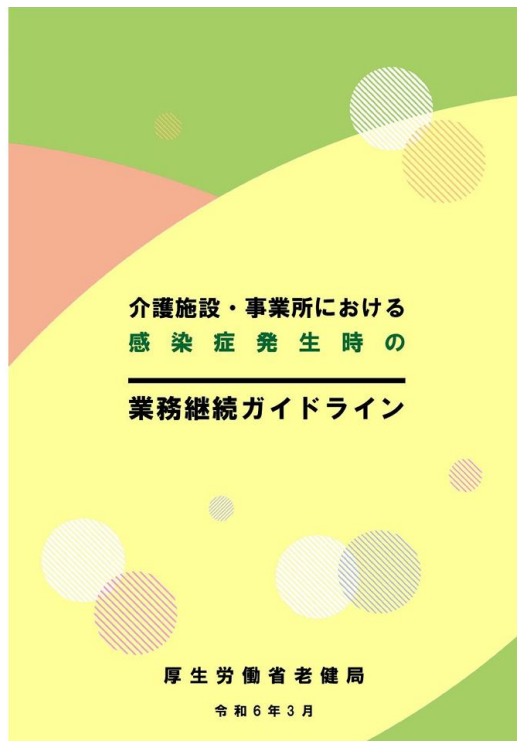
スポンジを定期的に交換している。



3. 感染症発生時の対応

発生時の対応を理解し、
BCPの作成と定期的な訓練する

- 想定する感染症と発生段階
- 組織体制：指揮命令系統
- 人員確保・業務優先順位
- 初動対応と個人防護具の適切な使用
- ゾーニングと動線管理・感染対策・備蓄
- 入所者・職員管理・教育
- クラスター対応の連携体制の構築



Presentation Outline

i. 高齢者施設における感染対策の現状と課題

- 最新の感染症疫学情報から
- 介護現場における感染対策の手引き
- 海外におけるNursing home・感染症対策の新ガイダンス

ii. 特に注意すべき感染症:特徴をわかりやすく

- 新型コロナウイルス感染症
- インフルエンザ
- 感染性胃腸炎

iii. 高齢者施設における感染症対策のポイント

- 組織体制と情報察知(サーベイランス)
- 基本的な感染対策の理解
- 感染症発生時の対応



ご清聴ありがとうございます。
ICESは施設に合った教育支援を行います。